

私たちの活動や意見を仲間で共有します。  
会費は県と日本平和委員会の活動も支えます。

# 土浦平和の会ニュース

2020年3月15日 第337号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//heiwatutitira.web.fc2.com/

## 東海第2原発再稼働を問う「茨城県条例制定請求者署名」 全県で8万3千筆を超え、さらに前進 (3/12現在) 土浦市では4,193筆 (必要数の177%)



県民投票受任者・協力者の皆さん

長期間ご協力ありがとうございました。  
昨日、土浦市の4,193筆分(目標2,365筆の177%)を土浦市選挙管理委員会に提出しました。(署名活動の主体は「いばらき原発県民投票の会」)

3月12日現在で、全県でも83,573筆と目標の48,607筆を超えています。地方選挙との関係でまだ署名が終っていない自治体もあり、最終的にさらに上積みされます。

今後の流れは、4月中に各自治体の選挙管理委員会による署名の審査・閲覧の後、5月25日に県知事へ条例制定を本請求し、県知事が県議会に提案。6月の県議会で審議となります。

県民投票条例の制定は東海第二原発再稼働阻止に向けての第一歩でもあります。

条例の制定に向けては、地元選出議員への要請や、6月の県議会の動向を注視しつつ、様々な東海第二原発再稼働阻止・廃炉の取り組みを引き続き強めていく必要があります。

3月13日

近藤 輝男 (土浦平和の会事務局長)

### 土浦市 安藤真理子市長が表明 「安全性が担保できない東海第二原発の再稼働はしないほうが望ましい」

土浦市の3月議会において、安藤新市長は東海第二原発の再稼働について、「安全性が担保できない原発の再稼働はしないほうが望ましいと考えております。」と表明しました。

これは、田子優奈市議(日本共産党)の質問にこたえたもの。この中で安藤市長は、県が主催した住民説明会で参加者からの厳しい意見や不満が相次いだことに触れ、さらに「再稼働の



#### 県民投票への流れ(「会」HPより)



##### 1. 受任者あつめ 完了!

署名をあつめる「受任者」が、44市町村すべてに必要な。大募集中!



##### 2. 署名あつめ まもなく完了!

有権者の1/50(約5万筆)以上の署名を、2カ月間であつめます。



##### 3. 直接請求

あつまった署名を県知事に提出。知事は意見を付けて県議会に提案。



##### 4. 条例制定

県議会で審議され、採決の結果、可決されれば、晴れて条例が制定!



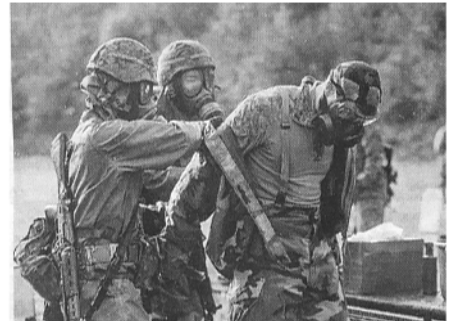
##### 5. 県民投票

条例により、県知事が再稼働の賛否を表明する前に県民投票を実施。

賛否を問う県民投票の実現をめざしている市民団体が県民投票条例制定への直接請求をするために必要な署名数を集めている等、再稼働に対する新たな動きもあります。」としたうえでの表明でした。

田子市議は、市長答弁を歓迎しつつも、「もう一步踏み込んで廃炉という言葉で発信をしていただきたい。」との再要望を行いました。

# 安倍政権が核兵器禁止条約に頑強に反対 する根本 がここに・・・ 驚きの日米「拡大抑止協議」



日米合同演習「フォレスト・ライト」で、陸自と海兵隊の間で核除染訓練が実施された。昨年12月5日、滋賀県高島市の饗庭野（あいばの）演習場で

「平和新聞」第2225(3/15付)が掲載した千坂純・日本平和委員会事務局長の告発記事が衝撃的です。

記事は、米国の各軍勢力と自衛隊を結合して「抑止力」をどう高めるかを協議する、日米「拡大抑止力協議」(2010年以来、日米で交互に毎年1、2回開催)について詳しく報じたものです。見開き全面的詳細な記事のほんの一部を紹介しします。

協議の米国での開催場所はすべて核兵器関連施設で行われ、2013年に朝日新聞が報じた内容として、「日米両国が第三国から核攻撃を受ける場合に備えた軍事、外交上の対応策などを協議する机上演習も始めた」とし、さらに「二人の兵士が同時に押す(核の発射ボタンの)仕掛けを見せられた。ある関係者は思わず『日米同盟は万全だ』とつぶやいた」という生々しい場面まで伝えています。

千坂氏は、「被爆国である日本政府の官僚たちが核兵器発射装置を見学し、「これなら安心」と愉悦の表情を浮かべる・・・これが「拡大抑止協議」でくり繰り返されている光景なのです」と記しています。

さらに記事は、直近の「拡大抑止協議」が東京で行われたの

は、昨年12月。それは11月にローマ教皇フランシスコが日本を訪れ、「核兵器は倫理に反する。廃絶すべき」と訴えた直後でした。安倍晋三首相は教皇との面会の場で「日本政府は核兵器のない世界のために努力する」と臆面もなく語りました。その直後に米軍がいざという場合、どのように核兵器を使用するかについて協議していたのです。この、姿勢こそ、安倍政権が核兵器禁止条約に頑強に反対する根本にあるもの、と評しています。

## 台風破損「東海第二原発看板」再建 カンパへのご協力を！



東海村に設置した「東海第二原発廃炉」の大型看板(畳4枚分)3基のうち2基が、昨年の台風で完全に破損しました。県平和委員会はこれを再建することを決定し、カンパを呼び掛けています。ご協力をお願いします。

## 安倍9条改憲NO！

改憲発議に反対する全国緊急署名  
取り組み遅れています。急いで広げましょう

3月10日、土浦憲法共同センター世話人会は取り組みが遅れがちな新署名の取組を強化することを申し合わせました。早急に、各団体構成員や身近な範囲の署名を開始し、駅頭宣伝・署名などに取り組みことなどを申し合わせました。



勇気ある新聞記者

## 望月衣塑子さん講演会 「国民の知る権利とメディア」

憲法九条土浦の会 結成15周年記念

日時：6月6日(土)

開会14:00～(開場13:30)

会場：土浦市民会館

小ホール

主催：憲法9条土浦の会



もちづき いそこ記者プロフィール

東京新聞社会部 記者

1975年、東京都生まれ。慶応義塾大学法学部卒業後、東京・中日新聞社に入社。経済部などを経て社会部記者となる。森友学園・加計学園問題・沖縄辺野古などについて、管内閣官房長官への鋭い追究力が注目されている。近者に「新聞記者」「武器輸出と日本企業」ほか多数。

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 会費：月額500円、「平和新聞」(毎月5、15、25日発行)：月額520円(送料含)

